

中等教育学校における

前・後期課程のつながりを意識した地理学習

地歴科 佐々木智章 古家 正暢

2012（平成24）年度から中学校で、また、2013（平成25）年度からは高等学校において新しい学習指導要領が実施される。本校社会科は、開校以来6年間を見通しての目標を達成するため、様々な取り組みを行ってきたが、新学習指導要領の実施を見据え、前期課程と後期課程の学習内容を再考すべき時期にきている。特に、日本史に比べて学習のブランクが長い地理は、前期課程の学習を後期課程の学習に活かすため内容の再考は急務であると考え。そこで、地理学習における前期課程と後期課程の内容のつながりを意識した実践を提案したい。

地理学習では中学校段階（前期課程）で学習した内容を高校段階（後期課程）で再び学習するということがある。例えば、新学習指導要領では、中学校において日本や世界の諸地域を網羅的に学習することになっている。一方、高校でも地誌学習は存在する。当然、地域のスケールや捉え方は異なってくるが、同じ地域を学習する可能性は避けられない。そこで、同じ地域を学習するにしても、前期課程と後期課程の内容を差別化し、関連性が出るように工夫していくことが必要となる。このことについて、新学習指導要領の地理Bの解説には、「生徒の発達段階を考慮して、中学校で培われてきた『地理的な見方や考え方の基礎』を踏まえて、さらにその習熟の程度を高めるよう工夫することが大切である」との文言がみられ、地理的な見方や考え方の部分で基礎から応用へと発展させる学習が一つの方法として考えられる。

では、地理的な見方や考え方の基礎や応用とは何だろうか。小・中・高一貫のカリキュラムを検討した吉田¹（2008）は、中学校段階において地理的事象そのものの把握・理解から因果関係をみるための分析・考察・探究をすることが基礎であり、高校段階において地理的事象を深く理解できたうえで、地域や環境などの社会的課題を主体的に考え、問題解決過程を通して価値判断や意思決定できるようにすることが応用であるとしている。この考え方は大いに参考となる。しかし、吉田（2008）は、あくまでも小学校からの連携を検討しているため、本校の場合は、基礎の前の段階である地理的な事象に対する気づきや把握を十分に行う「準備」の段階も前期課程の学習に取り入れる必要が出てくる。

以上のことを踏まえて、前期課程と後期課程でそれぞれ行うべき点や留意する点を検討した。まず、前期課程では、主題図・統計資料・写真・映像・新聞記事などをふんだんに用いて、地理的事象に関する気づきを大切にする。また、基礎の中でも主題図などを用いて地理的事象に関する分布の規則や傾向をとらえる学習を繰り返し行っていく。これらを意識した指導案（古家が作成・実践）が資料1・2である。

また、こうした内容を踏まえて、後期課程では主題図や統計資料から、地域の課題を見つけ、それらを解決するための提案を行っていくことが必要となるであろう。ただし、本校の場合は、各学年で編入があり、その中には日本での地理学習が初めてという生徒もいる。こうした生徒にいきなり応用の学習を行うことは難しく、今後検討すべき課題といえる。

¹ 吉田剛(2008)：地理的見方・考え方と一貫カリキュラム。山口ほか編『地理教育カリキュラムの創造 小・中・高一貫カリキュラム』古今書院、pp.103-108

資料1 社会科学学習指導案

『さまざまな資料から読み解くアフリカ』

教諭 古 家 正 暢

1. 日 時 2011年10月17日(月)13時30分～14時20分 於:W棟2階202教室
2. 対象学級 1年1組 (男子11名 女子17名 計28名)
3. 中学1年地理的分野「学びの履歴」 2011年度

(1) 日本の地域構成

- 日本の位置と地域
- 都道府県の構成と地域区分

(2) 様々な面からとらえた日本

- 自然環境から見た日本の地域的特色
- 人口から見た日本の地域的特色
- 資源や産業から見た日本の地域的特色

<ディベート> 3.11 東日本大震災[FUKUSHIMA]に関連づけて…

- A 安全性を高めながら、原子力に依存しつつ原子力発電所を作り続けていく。
- B 生活の水準を下げて、原子力への依存を減らす。あるいは完全に無くす。

(3) 世界の地域構成

- 地球上の位置関係と水陸の分布
- 国々の構成と地域区分

☆特設 『北方領土:元島民は難民ではないのか…』

- 元島民に対し、今、私にできることは… -

(4) 地域の規模に応じた調査

- 世界の国々
 - ・ アメリカ合衆国 (南アメリカと比較して)
 - ・ オセアニア
 - ・ 中華人民共和国
 - ・ アフリカ

さまざまな資料から読み解くアフリカ … 本時

チョコレートの実態 (モノカルチャー経済)

ブラッドダイヤモンド (鉱産資源と地域紛争)

- ・ EU

- 都道府県

- 身近な地域

4. 本時の主題 『さまざまな資料から読み解くアフリカ』

5. 主題設定の理由

- 今回の改訂において、学習指導要領は「世界に関する地理的認識の育成を重視」する方向へと舵を切った。そして「地図の読図や作図は、地理的事象の理解だけでなく、地理的な見方や考え方はぐくむ上で必要不可欠な能力」であると謳う。

そこで、本単元においては『アフリカ』取り上げ、さまざまな資料(地図・景観写真・カルトグラム(変形地図)・新聞記事・映像・書籍・音楽・民族衣装等)から読み解いていくこと

とした。折しも10月は、「STAND UP」の世界同時イベントが行われることから、世界から貧困をなくすために私たち一人一人が立ち上がろうと考えた。第1学年の学年目標である「What should I live for? - 何のために学んでいくのか - (今、私にできること…)」を、この機会に問い直したいと考えた。

6. 本時の目標

- アフリカの広大さ・多様性を確認する。
- これまでの既得知識を駆使して、イメージ化された世界地図を読み解く力をつける。
- 世界から貧困をなくすための方策を考える。

7. 授業展開 <第5校時：13時30分～14時20分>

	学習活動	教師の発問 Q と指示・説明● と 予想される生徒の反応◇	留意点
導入 12	○アフリカのイメージを共有する。 ○スライドでアフリカの様子を確認する。	Q.「10月17日、今日は何の日でしょう…」 ◇ええ、誰かの誕生日… 先生… Q.「アフリカ」というコトバからイメージすることをイメージマップにまとめてみよう。 ◇砂漠・ジャングル・黒人・難民・餓死… ●スライドで「アフリカ」のイメージを確認しましょう。	*心身をほぐすための問いであるので、自由闊達な意見を聴取する。
展開 I 15	○アフリカの広大さを確認する。 ○アフリカの多様性を確認する。 ○アフリカをカルトグラムで見てみよう。	●アフリカ大陸の広大さを確認しよう。 Q.日本とはほぼ同じくらいの面積の国は… Q.日本の何倍くらいあるのだろう… ●アフリカの多様性を確認しよう。 Q.アフリカの国の数は… いくつくらいあるだろう… Q.アフリカの言語の数は… どのくらいあるだろう… ●スライドを見ながら、アフリカを気候区分に従って縦断してみよう Q.アフリカの多様性を感じとることができましたか… どのような点に最も多様性を感じましたか… Q.アフリカをカルトグラム（変形地図）で見ると、どのようなことに気づくだろう…。ひとことで表現してみよう。	*地図帳 P33 を参照させる。 *地図帳で、しっかりと確認作業をさせる。
展開 II 15	○新聞記事の中のアフリカを知る。 ○失敗国家ソマリアの実情を映像で知る。 ○MDGs（ミレニアム開発目標）を知る。	Q.アフリカの女性で、最近、最も話題となったヒトは誰でしょう…。この人は誰… ◇ええ 「もったいない」の人じゃない ノーベル賞… ●ノーベル平和賞を受賞したリベリアのサーリーフ大統領リベリアを探してみよう 新聞記事に「失敗国家」という表現があったのだけれど、失敗国家第1位とされるソマリアについて映像で見てみよう。 Q.ソマリアの実情を、ひとことで表現すると… ◇かわいそう ひどい むごい Q.MDGs（ミレニアム開発目標）というコトバを聞いたことがありますか…	*新聞スクラップを継続しているか確認する。

終 結 8	○本授業の Essential Question の 提示	<p><本授業の Essential Question></p> <p>●世界から貧困をなくすために STAND UP TAKE ACTION に参加したいと考えます。実は、今日 10 月 17 日は「世界貧困デー」なのです。</p> <p>Q. 世界の貧困を終わらせるためのあなたならではのアクションを考えてください。5 回生の学年目標「What should I live for?」「今、私にできること…」と問われたあなたは、どのような回答をしますか…</p>	* 本日の授業を振り返る中で、世界の貧困をなくすために私は何を為すべきかと当事者意識をもって考えさせる。
-----------------	--	--	--

8. 評 価

- アフリカの広大さ・多様性を確認することができたか。
- これまでの既得知識を駆使して、イメージ化された世界地図を読み解く力をつけられたか。
- 世界から貧困をなくすための方策を考えられたか。

9. 参考資料

- 国境なき医師団 HP 「危機に陥ったコンゴ民主共和国」
http://www.msf.or.jp/special/condition_critical/photo/photo_02.html
- カルトグラム (変形地図) Worldmapper
- リベリア大統領ら平和賞 闘う女性 改革の灯 朝日新聞 2011/10/08
- 『立ち上がるソマリア女性』 NHK BS 第一 2010/05/08 放映
- STAND UP TAKE ACTION 主催：動く→動かす

資料 2 特設社会 学習指導案

『北方領土：元島民は難民ではないのか…』

- 元島民に対し、今、私にできることは… -

教諭 古 家 正 暢

1. 日 時 2011 年 9 月 21 日 (水) 9 時 30 分～10 時 20 分 於：W 棟 2 階 202 教室
2. 対象学級 1 年 3 組 (男子 11 名 女子 17 名 計 28 名)
3. 主 題 名 『北方領土：元島民は難民ではないのか…』
元島民に対し、今、私にできること

4. 主題設定の理由

2011 年夏、北方領土現地視察研修会において、元島民の話を聞く機会を得た。そこで、私に自分の生まれ故郷に自由に帰ることができない元島民は、現代日本における「難民」ではないのか…という疑念が湧いた。帰京して辞書にあたると、「難民」＝戦災・震災や、生活困窮者などで居所を失い (に居られず) 安全な地域に逃げて来た人々と定義されていた。この定義に従えば、1945 年日本の敗戦に伴う旧ソ連の侵攻により故郷を追われた北方領土元島民も「難民」と呼ばれてしかるべきではないかと考えた。

現在「難民」というと、通常、私たちはアフリカの難民を想起する。アフリカの難民に対しては、国連高等弁務官事務所 (UNHCR) をはじめ国境なき医師団 (MSF) 等 NPO 法人が「難民も同じ地球人だ」という認識のもと国際的な保護・援助活動を献身的に行っている。強いて、日本に難民はいないか…? と問われれば、福島第一原子力発電所から強制避難を余儀なくされている人々を「原発難民」として思い浮かべる生徒がいるかもしれない。これら被災者に対しても「がんばろう日本」「がんばろう東北」の掛け声のもと、数多くのボランティアが現地入りし支援を続けている。

これに対し北方領土元島民に対しては、「見ざる・聞かざる・言わざる」に近い状況が続いている。本年 6 月、元島民に衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会の視察団は、昨秋のロシア大統領の北方領土入りに対し「直ちにロシア大使館に抗議デモをかけたのか」と、平均年齢 78 歳を越える元島民の行動力に疑問を投げかけたという。この根本には、北方領土問題への関心の低さ、国会議員としての責任感とともに当事者意識の欠如があると考ええる。

この実情を生徒と共有する中で、北方領土元島民のために、学年目標である「What should I live for? - 何のために学んでいくのか - (今、私にできること)」を問い直したいと考えた。

中学校社会科では、北方領土問題を地理・歴史・公民 3 分野で取り上げている。しかし、国会議員の視察団でさえ無知な発言が相次ぎ、そのことを問題視しない実状がある。このことから中学生段階から北方領土問題を繰り返し指導する必要がある。中学 1 年生の地理的分野では「日本の範囲」で学習する。本授業はこの学習を受けた後の特設であるので、北方領土の元島民を難民としてとらえ、北方領土にかつて生きた、そして現在生きている人間に着目した授業を展開することとした。そのため、元島民の映像・手記を中心に授業を組み立て、生徒の感性を揺さぶろうと考えた。そして最後に「今、私にできることは何か…」という問いを発する中で、当事者意識を喚起させようと考えたものである。今後、2 年次においては、歴史的背景から…、3 年次においては、国家の主権の視点から深く考察していけるようにしたいと考える。

5. 本時の目標

- 「難民」の概念を確認する。
- 「北方領土元島民」の声を知り、学年目標である「What should I live for?」および「今、私にできること」を考える機会とする。
- 日本とロシアとの友好関係「共生」を築くための方策を考える。

6. 授業展開 (*2 時間扱い 本時は 1/2 コマ)

	学習活動	教師の発問 Q と指示・説明● と 予想される生徒の反応◇	留意点
導入 15	<ul style="list-style-type: none"> ○「難民」のイメージを共有する。 ○スライドで難民の実状を確認する。 ○日本の「難民」について考える。 	<p>Q.「難民」というコトバからイメージすることは… ◇アフリカ はらぺこ 餓死…</p> <p>●スライドで「難民」の状況を確認しましょう。 アフリカの「難民」に対しては、UNHCR や国境なき医師団) 等の NPO 法人が「難民も同じ地球人だ」という認識のもと国際的な保護・援助活動を献身的に行っています。</p> <p>Q.日本には「難民」は存在しないのでしょうか…? ◇ええ、何… 何… 「津波で避難生活をしている人…」「原発難民…」</p> <p>●被災地のボランティアセンターには、数多くの人々が訪れていた。また、スコップ・一輪車等の支援物資も豊富に届けられていた。</p>	*心身をほぐすための問いであるので、自由闊達な意見を聴取する。
展開 I 35	<ul style="list-style-type: none"> ○「北方領土」のイメージを共有する。 ○映像資料「北方領土元島民の証言」前半を見る。 	<p>Q.「北方領土」というコトバからイメージすることを側面黒板に書き出してみよう。 ◇ええ、何… 北方領土… エトロフ クナシリ シコタン ハボマイ… カニ サケ ほっけ う〜ん…</p> <p>●北方領土の位置を確認しましょう。(地図帳の P101/102) 実は今夏、北方領土を見るために北海道最東端の納沙布岬まで行きました。しかし霧が濃くて何も見えませんでした。</p> <p>●ここで、北方領土元島民の証言映像を見てみましょう。</p>	*「北方領土」に対し、どのような知識を持っているのかを把握する。

[illegible]

7. 評 価

- 「難民」の概念を確認できたか。
- 「北方領土元島民」の声を知り、学年目標である「今、私にできること」を真摯に考えたか。
- 日本とロシアとの友好関係「共生」を築くための方策を多面的・多角的に考えたか。

8. 參考資料

- 国境なき医師団 HP 「危機に陥ったコンゴ民主共和国」
http://www.msf.or.jp/special/condition_critical/photo/photo_02.html
 ○「奪われた故郷 北方四島・元島民の 65 年」 NNN ドキュメント 2010/08/01 放映
 ○「島を追われて」 得能宏 読売新聞 2011/03/06
 ○「北方領土 票にならぬ」 北海道新聞 2011/08/01